

新規就農者が主役！アスパラガス産地の新たな動き

1. 産地の概要(R5年)

- 【生産組織】 JAしまね出雲アスパラガス部会
- 【生産者数】 33名
- 【栽培面積】 6.8ha
- 【出荷量】 68t
- 【販売額】 86,000千円



ハウス内



出荷製品

2. 取組の経過及び概要

(1)リースハウス整備

H28年以降、JAが「産地パワーアップ事業」を活用し、リースハウス147a(11棟)を整備。

(2)パッキングセンターの機能強化

H18年にJAが「パッキングセンター」を整備。

R3年には、選別能力が優れる高性能な調製選別機を導入し、更なる省力化・高品質化を実現。



パッキングセンター

(3)販売先の確保

今後、出荷量の大幅な増加が見込まれるため、全農大阪青果センターと情報交換を強化。

(4)新規就農者の受入体制を強化

新規就農者等の担い手を確保するため、定住財団や農林大学校と連携し、オンライン産地ツアーや就農ミニツアーを開催。

出雲市の就農チャレンジ講座(アグリビジネススクール)にアスパラガスコースをR4年に新設。

(5)青年部の設置

若い部会員の増加に伴い、部会内に青年部を設置。新規就農者の受入や経営確立までのサポート、技術の研鑽など積極活動を展開。



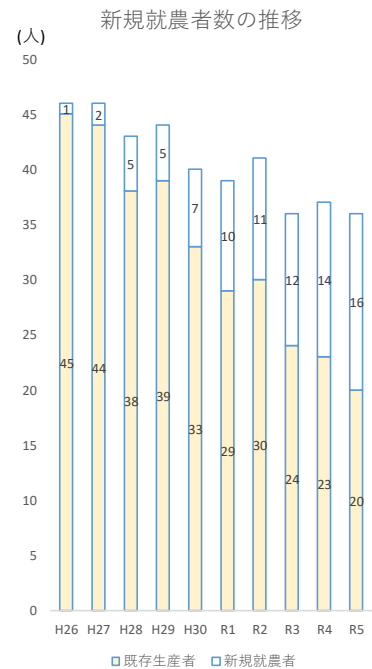
青年部

3. 取組の成果

(1)新規就農者確保による産地の拡大

リースハウスによる初期投資の軽減、パッキングセンターの機能強化による出荷調製に係る労力削減、ハウス栽培による収量・品質の安定、これらを踏まえた収支モデルを作成し、就農希望者へ提示することで、R5年までの10年間に新規就農者16名を確保。

現在では、生産者の4割以上が新規就農者。



(2)収量・品質の向上を目的とした施設栽培の拡大

R5年の栽培面積6.8haに占める施設栽培面積は5.6ha、8割を超える割合まで拡大したことで、収量や品質の向上に大きく貢献。



リースハウス

代表者から一言

今後も新規就農者を積極的に受け入れ、部会全体で支えていきたい。

松本尚幸 部会長

4. 課題と今後の取組方向

- (1)スマート農業(環境モニタリング)の導入による新たな管理基準の確立とタイムリーな情報提供の実施。
- (2)中核的経営体の育成による産地基盤の強化、栽培面積の拡大。